



雨の日は好きな人は少ないようで・・・梅雨時のジメジメした感じがどうしてもダメだったり、外出したくないと憂鬱になったり・・・おうち時間も増えますね。 おうち時間の過ごし方は？と聞かれたら「読書」を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。ゆっくりと本を読み、至福の時間を楽しみましょう。

#### 【今月の展示コーナー】

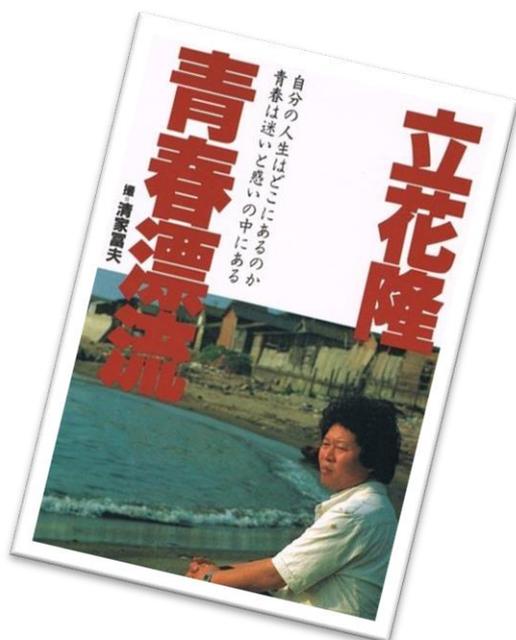
今回のテーマは  
「食について考えよう」です。

食育関連の本、世界の料理本などを  
取り揃えています。



【今月のおすすめ本】

「青春漂流」 著者 立花隆 出版社 講談社文庫

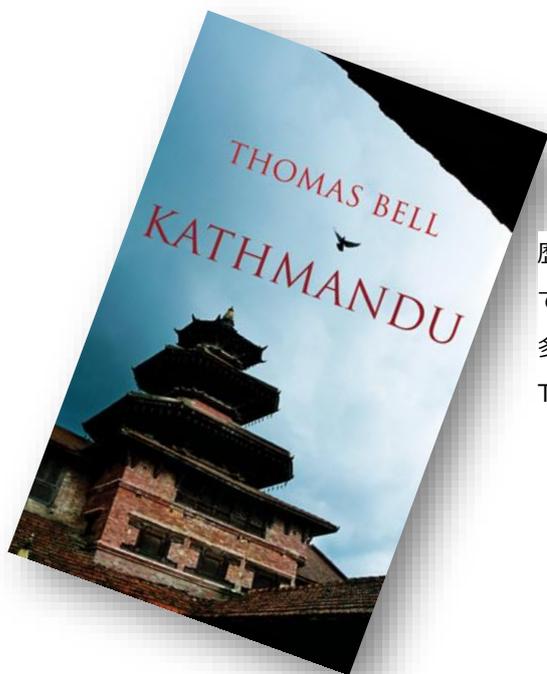


私は立花隆さんのファンで、「サル学」、「臨死体験」、「文明の逆説」、「環境ホルモン」など多くの本を読んできました。昨年4月に立花さんが亡くなったことを知ったときは大変ショックでした。莫大な読書量と徹底した取材により、立花隆の著作はいつでも知的好奇心を刺激し、読んでいると頭が良くなった気にさせてくれます。私はその中でも「青春漂流」が一番好きです。

この本で立花さんは、劣等生で一度、二度の挫折を経験した若者11人を取材し、それぞれの生き方を紹介しています。今は有名なソムリエの田崎信也さんや、猿まわし調教師の村崎太郎さんの修業時代が掲載されています。動物カメラマン、鷹匠、精肉職人、レコーディング・ミキサーなど、仕事内容が良くわからない職業を知ることができ、どんな職業も夢中になって突き詰めると面白く、やりがいのある仕事になるのだと思いました。学生生活や就活で迷い、疲れたときに、読むことをお勧めします。

短期大学部 櫻井秀樹先生

「kathmandu」 著者 Thomas Bell 出版社 Haus Pub



世界のトップの目的地を包括的に見る「kathmandu-カトマンズ」は、この魅力的な街についてもっと知りたいと思っている人にとって、面白くてアクセスしやすい年代記です。

ネパールのカトマンズにあるヒマラヤの最大の都市の1つは、千年の歴史を持つ文化的慣習と加速する都市開発のユニークなブレンドです。この本では、アジアの専門家であるトーマス・ベルが、カトマンズの豊かな歴史とその多くの自己改革の事例を探求しながら、市内での長年の経験を語っています。Thomas Bell はまた、最近のネパール地震の影響についても論じています。

国際地域学部 ブライアン・マホニー先生

※図書館カレンダーは鈴鹿大学ホームページをご覧ください。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況を考慮し、図書館の一般の方向けの開放を中止させて頂いております。ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解の程よろしく願いいたします。